

周南たちばな学園 袋井市立三川小学校 学校だより

令和3年11月26日発行

三川っ子だより

No.13

令和3年度 全国学力・学習状況調査 結果報告

5月に行われた全国学力・学習状況調査や袋井版学力調査についての分析を行った結果と今後の方針についてお知らせいたします。

I 学力に関する調査結果

5年生 袋井版学力調査 <袋井平均を☆☆☆とした時の本校の児童の結果>

国 語	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語の特質や使い方
	☆☆	☆	☆☆	☆
算 数	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
	☆☆	☆	☆	☆☆

<国語科>

- 話を聞き取った内容を問われる問題の正答率が高く、話の内容を大まかに理解することはできていました。
- 接続語や登場人物の心情の動きなど、選択肢のある問題の正答率が高い傾向にありました。
- 文章のつながりや文や段落の相互の関係を読み取る、文章中からキーワードを抜き出すなど、選択肢がなく、記述を求められる問題に無回答のまま提出する児童が多くみられました。
- ことわざや語句について知識が不足しているので、日常的に漢字・語句についての知識や語彙を豊にしていける必要があります。

<算数科>

- 数直線の日盛りを読むことや分度器を使って角の大きさを図ることなど、視覚的に分かりやすい問題の正答率が高い傾向にありました。
- 比例的要素を含んだ問題に対して苦手意識をもつ児童が多くみられました。
- 直方体や立方体などの面や辺、頂点などがどのように構成されているかを苦手としているので、展開図を書いたり、組み立てたりするを行いながら理解につなげていきます。

6年生 学力調査 <全国平均を☆☆☆とした時の本校の児童の結果>

高い☆☆☆☆☆ やや高い☆☆☆☆ やや低い☆☆ 低い☆					
国語	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語の特質や使い方	
	☆	☆	☆☆	☆	
算数	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用
	☆	☆	☆	☆	☆☆

<国語科>

- 文章全体の構成が分かり、内容の中心となる事柄を選択する、文章中で使われている語句と同じ使い方をしている語句を選択するなど選択肢のある問題の正答率が高く、取り組みやすいという意識があるようです。
- これまで習ってきた漢字を文章の中で使うことが苦手とする児童が多くみられました。
- 文章と図表とを結び付けて目的に沿った情報を見付けることや話の中心となる語や文を見付けて要約することに対して複合的に考えることや記述問題への取り組みへの苦手意識が出てしまい、無回答という答案が多くありました。

<算数科>

- 棒グラフなどデータから必要な情報を読み取る問題の正答率が高いため、社会科の資料活用場面など他教科でもその力を生かした授業でさらに高めていきます。
- 計算領域においては、文章を理解し、論理的に記述することに苦手さがあり、無回答の答案が目立ちました。
- 4年生、5年生で学習した図形の面積の公式を使って、複合的な図形の面積を求める問題の正答率が低く、単に公式を覚えるのではなく、なぜ、そのような公式になるのかという過程を重視した授業を行っていく必要があると感じました。

2 学習状況調査に関する調査結果（全国平均よりも高い数値の項目○低い数値の項目●）

- 自分にはよいところがある。
- 授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる。
- 学級の友だちとの間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して相手の考えを最後まで聞き、友だちの考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えている。
- ICT 機器の使用頻度が高く、他の友だちと意見交換をしたり調べたりするために使用している。
- 学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている。
- 1日の読書量が少ない。
- 新聞を読んでいない。
- 今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題について、解答しなかったり解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあつた。
- 今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題について、解答しなかったり解答を途中で諦めたりしたものがあつた。

学習状況調査から、全国平均より高い数値が出た項目が学習に関することが多いことから、学習に対する前向きな姿勢が感じられました。様々な授業で ICT 機器や思考ツールを積極的に活用したり、対話によって思考の深まるような授業を構想してきたりしたことで、自分の考えを相手に伝えるだけでなく、相手の考えを理解し、さらに自分の考えを深めたり広げたりすることができるようになった成果だと思われます。

その反面、子ども自身も実感しているように、学力調査設問に対して無解答という児童が多く見られました。「分からないから答えられない。」のはもちろんですが、本校の児童においては、「自分の解答が間違っているのかもしれない」といった不安や確信のなさから、間違っていってもいいから自分の考えを書いてみようという行動にならないことを感じました。

3 今後の取組について

今年度の本校の学力状況調査の結果は、芳しいものではありませんでしたが、子どもたちは、「自分にはよいところがある」という思いを持っていることが強みです。その思いを大切に、これからも思考ツールやタブレットを活用し、友だちとの対話を通して考える力（思考力・表現力・判断力）を育てる授業を展開していきます。

今後の学力調査の結果が少しでもあがるよう、授業の終末には、まとめや振り返りの時間の確保をしていきます。具体的には、「キーワードを使ってまとめる」、「〇字以内でまとめる」などの条件を設けまとめを記述すること、振り返りでは友だちとの対話から自分の考えがどのように変わったかを話したり、書いたりする時間を設けたりしていきます。そして、その学びの過程を教師も一緒に関わりながら見取り、適切な声掛け、評価をしていきます。

御家庭でも、お子さんの語彙が豊かになるよう、低学年からの読み聞かせやことば遊び、また、ニュースなどを話題に取り上げ、会話を広げるなどしていただき、学校と家庭が両輪となりお子さんがより良く成長できるよう御協力をお願いいたします。

（文責 教務：西尾）